

日本計量生物学会ニューズレター第93号

2007年2月28日発行

～・～・～・～・～・目次～・～・～・～・～

- ① 巻頭言「会長就任のごあいさつ」
- ② 2007年度会費納入のお願い
- ③ 会務分担
- ④ 2007年学会賞、功労賞候補 推薦のお願い
- ⑤ 2007年の計量生物シンポジウムに関するお知らせ(第二報)
- ⑥ 日本計量生物学会特別講演会の報告
- ⑦ 日本計量生物学会2006年第4回対面理事会議事録
- ⑧ 日本計量生物学会2007-2008年新理事会議事録
- ⑨ 日本計量生物学会2007年第1回対面理事会議事録
- ⑩ 2007年度 日本臨床薬理学会海外研修員募集要項
- ⑪ 学会誌「計量生物学」への投稿の誘い
- ⑫ 編集後記

① 巻頭言

「会長就任のごあいさつ」

丹後俊郎 (国立保健医療科学院)

このたびの選挙結果で、非力にもかかわらず2005-2006年に引き続き、今期2007-2008年の会長の大役を引き受けさせていただくことになりました。お引き受けするからには、微力ではありますが、日本計量生物学会の発展の一助となれますよう、努力してまいる所存です。到らぬ点が多々あるかとは思いますが、理事や会員の皆様のご助力をいただきながら、前期の反省点を改善しつつ、少しでも日本計量生物学会の発展に尽力させていただければと思います。みなさまのご助力、ご支援を賜りますよう、どうぞよろしく願いいたします。

今後の学会活動のさらなる活性化のために取り組んでいきたい問題として、今期は特に日本計量生物学会の学会活動の充実を図ることが第1と考えます。そのためには国際活動の活性化と国内での年会、シンポジウム、講演会等および学会誌の充実が基本と思われます。

まず、国際活動の活性化に関しては、IBCの日本開催に向けた取り組みとしてアジア地域でのregions, national groupsとの連携を積極的に進め、その活動の一つとして2007年に日本での第1回東アジア国際会議(East Asian Regional Biometric Conference 2007, 略称EAR-BC07)開催が重要な意味を持つと考えます。これに関しては、現在、佐藤・柳川両氏を代表とするワーキンググループで検討を進めており、この会報でも現時点で決定された事項が報告されるでしょうが、平成19年12月9日(日)～12月11日(火)の3日間、東大の弥生講堂で開催の予定です。IBS会長Prof Thomas A Louis (John Hopkins, USA)も参加の予定です。会員の皆様の積極的な参加をお願いしたいと思います。

国内での活動の活性化のためには、やはり会員諸氏による研究の質の向上と若い研究者の育成が肝要と思われます。そのためにはシンポジウムなどによる研究の向上やチュートリアルセミナーでの教育の充実が必要不可欠です。今後も統計関連学会連合等との有機的連携を図り、かつそのなかで独自性を出しながら協力体制を深め、今後の発展につなげていけるよう取り組んでまいりたいと思います。これは言葉でいうほどたやすい問題ではありませんが、今後、学会が成長していくためには常に取り組まねばならない問題でもあ

ります。

もう1つ重要なこととして財政問題があります。現在、前期理事会のご尽力により会計上の赤字は解消されましたが、事務委託費の料金改定も控えており、依然として学会誌やニューズレターの発行回数との微妙なバランスに依存している状態です。中長期的に健全な財政状況を保っていくためには、若い研究者を中心とした会員数の増強がキーポイントだと思います。そのためにはやはり魅力的な学会であることが前提でしょう。先のシンポジウムやチュートリアルの実加えて、セミナー、教育講演会、特別講演会等も考慮していく必要があります。さらに学会誌の充実、また、会報やメーリングリストによる会員への情報提供・サービスなどの充実をもつ会員増加へとつなげていければと思います。今期の会務運営のためには理事の他、各種委員を会員の皆様にもお願いしております。みなさまのご助力、ご支援を賜りますよう、重ねてお願いいたします。どうぞよろしく願いいたします。

②2007年度会費納入のお願い

浜田知久馬(会計担当理事)

山岡和枝(庶務担当理事)

既に日本計量生物学会員の手元に振り込み用紙が郵送されていると思いますが、日本計量生物学会の2007年会計年度(2007.1.1～2007.12.31)の会費納入をお願いします。本来は振り込み用紙と一緒に、会費納入のお願いの文書を同封する予定でしたが、手違いで振り込み用紙のみの郵送となったことをお詫び申し上げます。

1. 会費納入期限を2007年3月30日とします。この期限は本部送金に絡むものです。ご存知のように、日本計量生物学会のB会員(Biometricsを購読する国際会員)の会費にはInternational Biometric Societyの会費が含まれており、日本計量生物学会として徴集した会費からInternational Biometric Societyに送金しています。この期限を過ぎますとBiometricsを含む学会誌が届かないこともありますので、必ず期限内にお支払い下さい。

本年度もB会員の会費は12,000円、学生会員の会費は6,500円といたします。

2. 発展途上国援助のための特別会費のご寄付にご協力下さい。これは、2年に1度開かれる国際計量生物学会で講演する発展途上国の研究者又は学生に対する援助を各国が行なっているものです。ご寄付は1口2,000円で、何口でも結構です。ご寄付頂ける場合は、振り込み用紙の金額をご訂正の上でお振り込みください。なおその場合、通信欄に「特別会費 ○口 ○○○円」とお書き下さい。

3. インターネットあるいは電話での振り込みも受け付けています。特別会費のご寄付を頂ける場合には、寄付額を加えた金額をお振り込みください。

(お振り込み方法については各銀行のホームページ等を各自ご参照下さい)

4. ご不明な点は学会事務局(下記)宛にお問い合わせ下さい

い。

〒107-0062 東京都港区南青山 6-3-9 大和ビル 2F
(財)統計情報研究開発センター内
日本計量生物学会事務局
e-mail:biometrics@sinfonica.or.jp, FAX:03-5467-0482

③会務分担

山岡和枝(庶務担当理事)

1. 2007-2008年日本計量生物学会理事の会務分担

2007-2008年日本計量生物学会理事の会務分担として、日本計量生物学会役員選出に関する細則第4条に則り、各理事の役割分担について話し合い、以下の陣容で2007-2008年度の会務を遂行することとした。また、IBSに届けるRegional SecretaryとTreasurerを、それぞれ山岡理事、浜田・菅波理事とした。なお、各会務の最初に挙げた理事が責任者である。

会長	丹後俊郎
庶務	山岡和枝
会計	浜田知久馬, 菅波秀規
編集	松山 裕, 松浦正明
会報	酒井弘憲, 松井茂之
広報	折笠秀樹
企画(年会)	上坂浩之, 折笠秀樹, 岩崎 学, 南美穂子
企画(シンポジウム)	森川敏彦, 松浦正明, 松井茂之
組織	大瀧 慈, 岩崎 学
国際	佐藤俊哉, 大橋靖雄, 南美穂子
学会賞担当	佐藤俊哉
監査	柳川 堯, 吉村 功

2. 各種委員会

編集委員会 松山裕(委員長), 松浦正明(副委員長), 石塚直樹, 大瀧慈, 大森崇, 竹澤邦夫, 手良向聡, 三中信宏, 森川敏彦, 森田智視, 山口拓洋, 山村光司, John B. Cologne

広報委員会 折笠秀樹(委員長), 三中信宏, 浜田知久馬, 菅波秀規

3. IBS 日本支部の役員

Japanese Regions:

Toshiro Tango (President) (1/1/2007-12/31/2008)
Kazue Yamaoka (Secretary) (1/1/2007-12/31/2008)
Chikuma Hamada (Treasurer) (1/1/2007-12/31/2008)
Hideki Suganami (Treasurer II) (1/1/2007-12/31/2008)

Biometric Bulletin Correspondents(BBC):

Mihoko Minami (1/1/2007-12/31/2008)

Council Member:

Toshiya Sato (1/1/2002-12/31/2009)

4. 統計関連学会連合委員および同大会の委員, 事務局, Web 委員

2007-2008年統計関連学会連合および同大会委員について協議し、各担当は以下の通りとした。

<統計関連学会連合>

統計関連学会連合理事会 丹後俊郎, 岩崎 学
統計関連学会連合事業検討委員会 折笠秀樹
統計関連学会連合 Web 検討管理委員会 高橋邦彦

統計関連学会連合 ジャーナル検討委員会 松山 裕
統計関連学会連合大学院教育委員会 岸野洋久
<統計関連学会連合大会>
統計関連学会連合大会企画委員会
上坂浩之(2007年大会まで), 南美穂子
統計関連学会連合大会事務局
高橋邦彦, 寒水孝司(2007年大会まで)
統計関連学会連合大会 Web 委員
高橋邦彦(2007年大会まで)

④2007年学会賞、功労賞候補 推薦のお願い

佐藤俊哉(学会賞担当理事)

日本計量生物学会 学会賞、功労賞の推薦をお願いします。自薦、他薦を含め、会員の皆様に広く推薦をお願いいたします。下記の様式により学会賞、功労賞ともに学会賞選定委員会宛てにお送りください。

奨励賞につきましては、日本計量生物学会誌、Biometrics誌、または Journal of Agricultural, Biological, and Environmental Statistics 誌に掲載された論文の著者で、原則として 40 歳未満の本学会の正会員または学生会員の中から選定委員会で選出いたします。候補者には選定委員会から受賞条件を満たすかどうか、確認させていただくことがありますので、ご協力をお願いします。

受賞者の発表と表彰式は 5 月の日本計量生物学会総会(シンポジウムの際)に開催予定です。奨励賞の受賞者の方には統計関連学会連合大会(神戸)にて受賞講演をしていただきます。いずれの賞もニュースレターなどで各賞の受賞理由を公表いたします(推薦者名は非公開です)。

奨励賞の副賞は萬有生命科学振興国際交流財団からご寄付いただいております。

<推薦の様式>

A4 版 1 枚に、学会賞または功労賞推薦書と 14 ポイントで書き、本文 10.5 ポイントで、以下の内容をご記入下さい。(資料の添付等は自由です。)

- 1) 被推薦者名, 所属, 連絡先(住所, 電話, e-mail)
- 2) 推薦理由
- 3) 推薦期日
- 4) 推薦者(複数の場合は全員の氏名)
- 5) 推薦者(複数の場合は代表者)の所属および連絡先(住所, 電話, e-mail)
- 6) 推薦締め切り期限: 平成 19 年 3 月 31 日
- 7) 推薦書送付先:

〒107-0062 港区南青山 6-3-9 大和ビル 2 階

日本計量生物学会事務局学会賞選定委員会 宛

会長 丹後俊郎, 学会賞担当理事 佐藤俊哉

⑤2007年の計量生物シンポジウムに関するお知らせ(第二報)

松井茂之・松浦正明・森川敏彦(企画担当理事)

今年の計量生物シンポジウムは、2007年 5月25日(金)、26日(土)の両日 昭和女子大学・本部館大会議室 (http://www.swu.ac.jp/showa/content/c_access.html 最寄り駅: 東急世田谷線 三軒茶屋)にて開催されます。

(★第一報では東京工業大学大岡山キャンパスとお伝えしま

したが、会場が狭く本学会の参加者を収容するには不十分であると判断されたため残念ながら断念し、会長のご尽力で昭和女子大学をお借りすることになりました。お詫びして訂正致しますと共に、昭和女子大学のご好意に感謝致します。また同時期に開催されます応用統計学会シンポジウムにつきましては、24日のシンポジウムは当初予定通り、東京工業大学大岡山キャンパスで行われますが、両学会員の便を考慮し、25日は応用統計学会(午前)・計量生物学会(午後)のチュートリアルを昭和女子大同一会場で行うことになりました。お間違えのない様にお願致します。

今回のテーマは「環境・医療・医薬におけるリスク評価と管理」です。特別セッションはシンポジウムと同タイトルで筑波大・椿広計先生にオーガナイズをお願いし数名の演者にご講演頂く予定です。またカナダから来日されるWalter 教授の特別講演も予定しています。更には「疫学研究のデザインと曝露効果の推定」に関するチュートリアルセミナーをこの分野の第一人者である京大・佐藤俊哉先生にお願いしました。奮ってご参加下さい。一般演題の発表に関しては、シンポジウムとしての性格から今回のシンポジウムの趣旨に沿った演題のご発表を特に歓迎致します。奮ってご発表下さい。発表申し込み要領は下記3.をご参照下さい。また参加要領は下記5.をご参照下さい(事前登録をお願いします)。

なお、シンポジウム終了後、特別講演演者のWalter先生(McMaster大学)を囲む懇親会を開催する予定です。こちらも奮ってご参加下さい。懇親会の案内はHP上で掲載いたします。

1. 趣旨

いま温暖化オゾン層破壊など地球規模で人類の生存を脅かす大きな環境変化が起きつつあります。また一方では「ヒト」の個体レベルでの先端医療の目覚ましい発展の影で投薬ミス等による思いもかけない副作用手術失敗などの医療事故が頻繁に発生し社会問題化しています。更には鳥インフルエンザウイルスなど大量死亡を含む重篤な感染症の地球規模大発生が予想されています。日本におきましても本年既に数件のH5N1型の発生が見られています。そこで今回はそのような背景を踏まえこれらのリスクの評価と管理の問題に対しそれぞれの分野で生物統計家がどうアプローチしどう問題解決を図れるかを議論したいと思えます。リスク評価の対象は非常に広いので今回の対象を「環境・医療・医薬」に絞りました。このような問題はまさに生物統計家の活躍すべき舞台であるといえます。

2. プログラム

●5月25日(金)午後:チュートリアルセミナー

「疫学研究のデザインと曝露効果の推定」

講師:佐藤俊哉(京都大学)

●5月26日(土)終日:シンポジウム

・特別セッション

「環境・医療・医薬におけるリスク評価と管理」

オーガナイザー:椿広計(筑波大学)・森川敏彦(久留米大学)

座長:椿広計(筑波大学)

1. 「セッションの主旨説明」(椿広計)
2. 「リスクとその基礎概念」
宮本定明(筑波大学大学院リスク工学専攻)
3. 「インフルエンザ罹患者後の薬剤使用と臨床症状発現」
藤田利治(統計数理研究所)
4. 「イレッサ・ケースコントロール・スタディによるILD発症リスクの評価」
伊藤要二(アストラゼネカ(株))

5. 「医療リスクへの計量的接近:発見科学の立場から」

津本周作(島根大学医学部)

6. 「環境リスクの諸側面」

松本幸雄(統計数理研究所)

・特別講演

演題:Doctors and patients behaving badly: how can we estimate treatment benefit if the randomized trial assignment is not always followed?

演者:Prof. Stephen Walter (McMaster University, Canada)

座長:柳川堯(久留米大学)

3. 一般講演:

以下の要領で一般講演を募集します。

(1) 申し込み方法:

発表者氏名, 所属(共同の場合は全員の氏名, 所属)講演題目連絡先を明記の上, 電子メール, ファックスあるいは葉書で下記にお送りください。またBiometric Bulletinへの掲載のためにお手数ですが講演題目発表者氏名所属についての英語版も合わせてお送りください。

〒107-0062 東京都港区南青山 6-3-9 大和ビル 2F

(財)統計情報研究開発センター内

日本計量生物学会事務局

e-mail: biometrics@sinfonica.or.jp

FAX: 03-5467-0482

HP: <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jbs/>

(2) 申し込み締切(必着): 2007年3月16日(金)

(3) 予稿原稿締切(必着): 2007年4月20日(金)

ご講演を申し込まれた方には予稿原稿執筆要領をお送りします。

4. 参加費:

シンポジウム: 正会員, 応用統計学会員 3,000 円, 非会員 5,000 円, 学生(正会員, 非会員とも)1,000 円

チュートリアル: 正会員, 応用統計学会員 2,000 円, 非会員 5,000 円, 学生(正会員, 非会員とも)1,000 円

懇親会: 3,000 円

5. 参加申し込み方法:

参加ご希望の方は、同封あるいはHP(<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jbs/>) からdownloadした申し込み用紙に、

(1)氏名(フリガナ)

(2)会員(応用統計学会員を含む)・非会員・学生

(3)所属・連絡先

を明記の上、5月11日(金)までに上記日本計量生物学会事務局までお申送ください。

(シンポジウム, チュートリアル, 懇親会共に同一の用紙でお申し込み下さい。)

6. その他:

(1) シンポジウム期間中に日本計量生物学会総会及び学会賞授与式, 並びに評議員会を開催します。

(2) 5月24日(木)には応用統計学会シンポジウムが下記東京工業大学にて、また25日(金)午前には応用統計学会チュートリアルが本シンポジウムと同会場(昭和女子大学)にて開催されます。

東京工業大学 大岡山キャンパス 西8号館E棟10階

大学院情報理工学専攻 大会議室

<http://www.titech.ac.jp/home-j.html>

〒152-8550 東京都目黒区大岡山 2-12-1

⑥日本計量生物学会特別講演会の報告

山岡和枝(庶務担当理事)

日本計量生物学会特別講演会「Randomization in Clinical Trials」が下記の要領で開催された。

司会:丹後俊郎(国立保健医療科学院)
講演タイトル:Sequential monitoring of randomization tests
講演者:Professor William F. Rosenberger (George Mason University, USA)
日時:2007年1月12日(金)午後3時30分~5時00分
会場:東京大学大学院薬学系研究科・総合研究棟2F講堂(文京区本郷7-3-1)
共催:東京大学大学院薬学系研究科医薬政策学講座
参加費:無料

本特別講演では、2002年に”Outstanding Scientific and Professional Title, Mathematics and Statistics Division, Association of American Publishers”の賞をとられたテキスト”Randomization in Clinical Trials”の著者の一人であるRosenberger教授(George Mason University, USA)を講師にお招きした。講演の内容は、randomizationに関連する演者の最近の研究、特に、臨床統計家にもあまりなじみの少ないrandomization tests in randomization modelの研究について紹介していただいた。約100名の参加者を得て会場も満場となり、randomizationへの関心の高さが感じられた。



⑦日本計量生物学会 2006年第4回対面理事会議事録

山岡和枝(庶務担当理事)

日時:2006年12月14日(木)16時~17時
会場:東京理科大学九段校舎6F会議室
出席:岩崎,大瀧,岸野,丹後,浜田,松浦,松山,山岡
欠席:上坂,大橋,酒井,佐藤(健一),佐藤(俊哉),椿,三,森川,柳川(監事),吉村(監事)
出席8名,委任状8通と現理事の1/2(8名)以上の出席(委任状含む)があり,開催条件(会則第36条)を満たしていることが確認され,丹後会長を議長として,議事を開始した。

議事:

I. 報告・確認事項

1. 選挙管理委員会報告

山岡庶務担当理事より選挙結果について確認の報告がされた。

2. 2006年計量生物セミナー報告

岸野企画担当理事より,12月7-8日に開催された計量生物セミナーの概況について報告された。

3. 2007年計量生物学会シンポジウム・チュートリアルセミナー

松浦企画担当理事より,2007年計量生物学会シンポジウム・チュートリアルセミナーの企画について報告された。丹後会長より,会場である大会議室の収容人数について,十分な広さがあるか確認するよう依頼があった。また,特別講演の演者 Prof Walter の講演タイトル等は英語で表記することになった。

4. First Conference of the Far East Asian Region of IBS 開催について

丹後会長より,資料3に基づき,標記 conference についての韓国開催から日本開催となった経過の説明と次期理事会で日本開催に向けて検討していく予定であると報告された。

5. 各担当からの2年間のまとめ

各担当理事から2005-2006年活動報告と申し送り事項が報告された。以上の報告をもとに次期理事会への申し送り事項の確認がなされ,特に次の事項について申し送ることが確認された。

(1) 選挙について

ハガキの代わりに封書でという投票方法の変更および評議員制度・新任投票の意義と実施について,組織担当理事を中心に継続的に検討を行う。

(2) 国際会員の入退会や連絡先の変更, Biometrics 未着などのクレーム処理について

会員管理の対応の問題点について,各 Region に任せる方向で本部に持っていく等の改善案の提案なども含めて, council member を通して IBS との協議を図ってもらう。とりあえずの対応として,会員からのクレームの対処を的確に行うように図る。

(3) 編集について

編集に関して,電子ジャーナル化の検討,査読者への謝辞,投稿規定の現状に合わせた変更,特集号の充実,25周年記念特集号の発行のための編集作業の開始等について検討事項として提示された。

(4) 年会,シンポジウム開催について

シンポジウムに関しては,統計関連学会連合大会に参加することになったことから,応用統計学会との同時開催の有無も含めて,独自性を求めるという会員からの要望もふまえて,検討を行う。

(5) 統計学会75周年記念出版事業について

統計学会75周年記念出版事業の経過報告および第3巻の内容に関して次期理事会で提案する。

(6) IBS 関連の国際活動について

国際活動の活性化に向けて,引き続き IBC への立候補の準備を続ける。2007年に日本での FEAR-IBS 開催, Council Member の増員等について引き続き検討を進める。

(7) メーリングリスト JBS について

担当者個人に依存しないシステム,運営方法について検討する。

(8) 「委任状」の取扱いについて

理事会／総会等 欠席時の「委任状」の取扱いについては、会則等も含めて組織担当理事を中心に検討をする。

⑧日本計量生物学会 2007-2008 年新理事会議事録

山岡和枝(庶務担当理事)

日時: 2006年12月14日(木)17時~19時
会場: 東京理科大学九段校舎6F会議室
出席: 岩崎, 大瀧, 菅波, 丹後, 浜田, 松井, 松浦, 松山, 南, 山岡
欠席: 上坂, 大橋, 折笠, 酒井, 佐藤, 森川, 柳川(監事), 吉村(監事)

出席10名と委任状6通と、現理事の1/2(8名)以上の出席があり、開催条件(会則第36条)を満たしていることが確認され、丹後会長を議長として、議事を開始した。配付資料5点および新規理事には2005-2006理事会活動報告が配られた。議事は以下の通りである。

議事:

I. 報告・確認事項

1. 新理事会メンバーの確認

丹後会長より、会長就任の挨拶の後、会長選任の5名の理事を含めた理事会メンバーの確認がなされた。

2. 旧理事会からの引継ぎ事項の確認

2005-2006理事会活動報告をもとに、旧理事会からの引き継ぎ事項の確認がなされた。

II. 審議事項

1. 理事の役割分担について

役割分担について審議し、2007-2008理事会は以下の役割分担で会務を遂行することが承認された。また、編集担当は編集委員会を立ち上げ、広報担当は(三中・前メーリングリスト担当理事を含めた)広報委員会を組織し、活動を行っていくことになった。なお、これまで学術会議担当理事をおいていたが、実質的な活動がないということで特に担当をおかないこととした。

会長 丹後俊郎
庶務 山岡和枝
会計 浜田知久馬, 菅波秀規
編集 松山 裕, 松浦正明(編集委員会)
会報 酒井弘憲, 松井茂之
広報 折笠秀樹(広報委員会)
企画(年会) 上坂浩之, 折笠秀樹, 岩崎 学, 南美穂子
企画(シンポジウム) 森川敏彦, 松浦正明, 松井茂之
組織 大瀧 慈, 岩崎 学
国際 佐藤俊哉, 大橋靖雄, 南美穂子
学会賞担当 佐藤俊哉

2. 統計関連学会連合委員および統計関連学会連合大会の委員, 事務局, Web委員の選出

資料3の2005-2006年統計関連学会連合および同大会委員について協議し、基本的には前記の委員を継続して依頼することになった。なお、事業検討委員会は折笠理事を、統計関連学会連合大会企画委員会には2007年までの任期とした上坂理事に加え、南理事を委員とすることになった。各担当は以下の通りである。

<統計関連学会連合>

統計関連学会連合理事会(2名) 丹後俊郎, 岩崎 学

統計関連学会連合事業検討委員会 折笠秀樹
統計関連学会連合 Web 検討管理委員会 高橋邦彦
統計関連学会連合 ジャーナル検討委員会 松山 裕
統計関連学会連合大学院教育委員会 岸野洋久

<統計関連学会連合大会>

統計関連学会連合大会企画委員会(2名)

上坂浩之(2007年大会まで), 南美穂子

統計関連学会連合大会事務局(2名)

高橋邦彦, 寒水孝司(2007年大会まで)

統計関連学会連合大会 Web 委員

高橋邦彦(2007年大会まで)

3. IBS 関連の担当

IBS 関連の担当に関して、以下の通りで役務を遂行することになった。

Japanese Regions:

Toshiro Tango (President) (1/1/2007-12/31/2008)

Kazue Yamaoka (Secretary) (1/1/2007-12/31/2008)

Chikuma Hamada (Treasurer) (1/1/2007-12/31/2008)

Hideki Suganami (Treasurer II) (1/1/2007-12/31/2008)

Biometric Bulletin Correspondents(BBC): Mihoko Minami (1/1/2007-12/31/2008)

Council Member: Toshiya Sato(1/1/2002-12/31/2009)

4. First Conference of Far-East Asian Region of the IBS (FEAR-IBS) 開催について

丹後会長より、FEAR-IBS に関してのこれまでの経過が報告され、working group を立ち上げて2007年秋に日本開催にむけて活動を行っていくことになった。WG のメンバーを、柳川堯, 佐藤俊哉, 大橋靖雄, 岸野洋久, 岩崎学, 浜田知久馬, 森川敏彦, 南美穂子, 山岡和枝, 丹後俊郎(敬称略)の10名で構成することが承認された。

5. その他

WEB 登録の際に「日本計量生物学会」で検索しても学会のWEB が検索できないという指摘があり、これに関しては有料の場合の料金も含めて、さらに検討することになった。同時に「日本計量生物学会」という名称についての適切性について議論がなされたが、名称については今後検討を継続していくことになった。

⑨日本計量生物学会 2007 年第1回対面理事会議事録

山岡和枝(庶務担当理事)

日時: 2007年1月30日(火)18:00~20:00

会場: 東京理科大学九段校舎6F 第一演習室

出席: 岩崎, 上坂, 大瀧, 大橋, 菅波, 丹後, 浜田, 松井, 松浦, 松山, 南, 山岡, 佐藤, 柳川(監事), 吉村(監事)

欠席: 折笠, 酒井, 森川(委任状3通)

出席13名と委任状3通と、現理事の1/2(8名)以上の出席があり、開催条件(会則第36条)を満たしていることが確認され、丹後会長を議長として、議事を開始した。配付資料12点が配られた。議事は以下の通りである。

議題:

I. 報告・確認事項

1. 旧・新前回理事会議事録・会務分担(会報用)の確認

標記について修正加筆がある場合には、庶務担当理事まで連絡することとなった。

2. 2007年度計量生物シンポジウム・チュートリアルに関する報告

シンポジウム担当理事より、当初予定していた東工大の会場収容人数が少ないことが判明し、会場を昭和女子大に変更したこと、チュートリアルは応用統計学会も同一会場で5月25日に開催すること、特別セッションおよび特別講演、チュートリアルの演者が決定したことが報告された。

3. 学会賞選考委員について

学会賞担当理事より、今期の学会賞選考委員を選定したとの報告があり、学会賞候補者を推薦してほしい旨が申し添えられた。

4. 編集委員会および「計量生物学」・25周年記念特集号発行について

編集担当理事より編集委員を10名から13名に変更したこと、日本計量生物学会 25周年記念特別号発行に関して、3月30日締め切りで発表者に依頼済みであること、電子メールによる電子投稿に変更するなど、投稿規定の改定を行いPDFで提出するよう変更したとの報告があった。

5. 会計報告

会計担当理事より2006年会計について、本日、吉村・柳川監事同席のもとで監査が行われ、同年に行う予定であった途上国援助が、従来あったIBS会長からの依頼がなかったため支払われなかった点について監事から適切に処置するよう指摘を受けたとの報告がなされた。これに関して吉村監事から趣旨に従って運用するよう理事会に対して勧告があった。

6. 会報について

松井会報担当理事より、2月末発行予定の次回会報について、担当者への記事の依頼があった。

7. その他

(1) Yahoo カテゴリへの登録の申請について

庶務担当理事より、2年来の懸案事項であったYahooカテゴリへの登録が受理されたとの報告があった。

(2) IASC 第4回世界大会・第6回アジア大会合同国際会議後援について

庶務担当理事より、IASC2008 国際組織委員会から標記開催について後援依頼を受け、承諾したとの報告があった。

II. 審議事項

1. 統計学会 75周年記念出版事業の経過報告および第3巻の内容について

大橋理事より、統計学会75周年記念出版事業の経過報告および第3巻の内容について、そのいきさつも含めて報告があった。記念出版事業は担当委員で相談し、3月末締め切りで執筆依頼を順次行っているとの報告があった。

2. 2007年統計関連学会連合大会・企画セッション、チュートリアルについて

企画担当理事(年会)より、統計関連学会連合大会準備の進行状況について報告があり、大会案内送付については各

学会に任されているので、可能ならば、できるだけ会報発行に同封するように図ることが承認された。

3. メーリングリスト

メーリングリストに関して広報委員会(折笠理事・三中評議員・会計担当理事)で検討することになっていたが、浜田・菅波会計担当理事にはまだ連絡がきていないとのことだったため、次回での継続審議事項とした。

4. 会員の入退会に関して

山岡庶務担当理事より2006年の入退会者の報告があり、承認された。

5. 会費および学会委託事務経費の料金改訂について

浜田会計担当理事から、予算案に関しては事務委託費の値上げ等も含め不確定要素が大きかったため、次回理事会で提案することにしたとの提案があり、次回の審議事項とすることになった。

6. 東アジア地域会議 First Conference of Far-East Asian Region of the IBS (FEAR-IBS) 開催に関する working group 報告

東アジア地域会議について、ワーキンググループでの検討結果が報告された。内容等に関してはまだ検討を要するが、時間が迫っている都合上、本日の会議では名称、開催日、開催場所をまず決定することになった。

会議名称: East Asian Regional Biometric Conference 2007 (略称「EAR-BC'07」)

開催日: 2007年12月6日(木)~8日(土)の3日間

会場はこの日程で、会場費が安く、宿泊施設が利用できるという条件で探すことになった。以上が決定次第、2月早々にe-mail 理事会で確定することとした。

7. その他

1) 企画担当理事(年会)より、本年度の計量生物セミナーの開催について理事会で検討したいとの申し出があったが、これに関しては企画担当理事の間でその目的も含めて検討を行い、次回の理事会で審議することになった。

2) 企画担当理事(シンポジウム)より、2008年のシンポジウムを合同で行うかについて検討事項としたいという申し出があったが、関連学会への参加のあり方も含め、今後、企画担当理事の間で検討し、次回の理事会で審議することになった。

3) 企画担当理事(年会)より、統計関連学会連合大会のチュートリアルセミナーの企画案申込みが明日までとなっているので、提案を歓迎するとの補足があった。

4) 大瀧理事より、将来起こりうるとされている新型インフルエンザのパンデミックに備えて、本学会としても何らかの対処を検討する必要があるのではないかという意見が出された。この件については、大瀧理事が検討課題に関する焦点を明確化させ4月中旬以降の時点で理事会に再提示することとなった。

III. その他

1. 次回対面理事会の日程について

3月27日17:00~19:00まで東京理科大学九段校舎6F第一演習室にて開催することになった。

⑩2007 年度 日本臨床薬理学会海外研修員募集要項

日本臨床薬理学会海外研修員選考委員会

次の要項により 2007 年度本学会海外研修員候補者を募集します。

A 目的

国際的な視点より、わが国の薬物治療に関わる質の高い臨床研究、疫学研究を遂行し、またそのシステム作りや教育に貢献できる人材の育成を図ることを目的とする。

B 応募資格

1. 薬物治療の臨床研究に従事、またはそれを志す医師および医師以外の研究者(原則として 40 歳以下)
2. 研修に必要な知識、経験および語学力を有するもの
3. 薬物治療の臨床研究が可能な研修施設あるいは研修コースにおいて 2007 年 9 月より 1 年間以上 2 年間以内の研修が可能なもの
4. 日本臨床薬理学会会員であること(応募時入会可)
5. 帰国後、臨床薬理学領域の活動を継続し、医師は学会認定医、薬剤師は学会認定薬剤師の資格を取得する意志のあるもの。
なお、他の機関の助成金との重複は避けてください。他の機関に助成申請をされている場合は願書にその旨記載ください(選考の際には他の機関への助成申請の有無は考慮しません)。また他の機関からの助成が決定した場合は速やかにその旨をご連絡ください。

C 募集人員

1. 臨床研究を志向する医師 若干名
2. 臨床薬学、生物統計学、薬剤疫学等、臨床研究に資する学問を志向する研究者 若干名

D 奨学金支給額

1. 旅費：日本より目的地までの本人分直行往復運賃額および付帯費用
2. 滞在費：米ドルとして 1 ヶ月当たり本入分 1,350 ドル
同伴配偶者 250 ドル、子供 1 人当たり 100 ドル (2 名まで)
3. 医療保険費補助：1 ヶ月当たり 100 ドルまで
4. 学会参加費補助：年 1 回 1,000 ドル以内
5. 語学研修費(希望者): 3 ヶ月以内で、1 ヶ月当たり 1,500 ドル以内の実費

E 応募手続き

1. 希望者は下記の海外研修事務局に願書を請求してください(電話による申し込みは受け付けません)
願書は学会ホームページ(<http://www.jscpt.jp>)からもダウンロードできます。
2. 応募必要書類
 - a 願書(3.5×4 cm の写真添付)
 - b 推薦状 2 通(所属機関責任者および本学会評議員)
所属機関責任者は、大学の場合、総合大学では、学部は学部長、大学院は研究科長とし、単科大学では学長とし、研究所では研究所長とする。また研究機の場合は代表責任者とする。
なお、所属機関責任者の推薦状の中に応募者が帰国後、臨床薬理学領域の活動に携わることを明記すること。
 - c 研修先からの臨床薬理プログラムに参加させる旨の手紙および研修先における薬物治療の臨床研究に関

するパブリケーションリスト

- d 健康診断書
 - e 主要論文 2 編(各 8 部)
 - f 西暦で記載する
3. 締切: 2007 年 4 月末日

F 選考方法

1. 一次：書類審査
2. 二次：面接(日時、場所は一次審査の結果通知の際にお知らせします)

G 連絡先

日本臨床薬理学会海外研修事務局
〒113-0032 東京都文京区弥生 2-4-16 学会センタービル
FAX: 03-3815-1762 E-mail: clinphar@jade.dti.ne.jp
URL <http://www.jscpt.jp>

⑪学会誌「計量生物学」への投稿のお誘い

松山 裕(編集担当理事)

本学会雑誌である「計量生物学」に会員からの積極的な投稿を期待しています。会員のためになる、会員相互間の研究交流をより一層促進するための雑誌をめざすため、以下の 5 種類の投稿原稿が設けてあります。

1. 原著(Original Article)

計量生物学分野における諸問題を扱う上で創意工夫をこらし、理論上もしくは応用上価値ある内容を含むもの。

2. 総説(Review)

あるテーマについて過去から最近までの研究状況を解説し、その現状、将来への課題、展望についてまとめたもの。

3. 研究速報(Preliminary Report)

原著ほどまとまっていなくてもノートとして書き留め、新機軸の潜在的な可能性を宣言するもの。

4. コンサルタント・フォーラム(Consultant's Forum)

会員が現実に直面している具体的問題の解決法などに関する質問。編集委員会はこれを受けて、適切な回答例を提示、または討論を行う。なお、質問者(著者)名は掲載時には匿名も可とする。

5. 読者の声(Letter to the Editor)

雑誌に掲載された記事などに関する質問、反論、意見。論文投稿となると、「オリジナリティーが要求される」、「日常業務での統計ユーザーにとっては敷居が高い」などを理由に二の足を踏む会員が多いかもしれませんが、上記の「研究速報」、「コンサルタント・フォーラム」は、そのような会員のために設けられた場であり、活発に利用されることを特に期待しています。いずれの投稿論文も和文・英文のどちらでも構いません。また、2004 年度から学会に 3 つの賞が設けられ、その一つである奨励賞は、「日本計量生物学会誌、Biometrics, JABES に掲載された論文の著者(単著でなくても第 1 著者かそれに準ずる者)で原則として 40 歳未満の本学会の正会員または学生会員を対象に、毎年 1 名以上に与えられる賞」です。最近では、履歴書の賞罰欄に「なし」と書くことと公募の際に引け目を感じるくらいです。会員諸氏の意欲的な論文投稿をお待ちしております。なお、投稿に際しては、雑誌「計量生物学」に記載されている投稿規程を参照してください。

⑫編集後記

早くも春の足音が聞こえて参りました。今年は例年になく暖かな冬で、春の訪れも早いように感じますが、そろそろ花粉が飛散しはじめ、編集子にとっては悪魔の季節の到来でもあります。前号では、呉秀三に絡んだ与太話を書かせて戴きましたが、今度は、正月早々、呉の姻戚にあたる菊池大麓の翻訳した「数理釋義」(明治19年、博聞社)という書籍を入手しました。巷では山崎豊子原作というより木村拓哉主演ということで「華麗なる一族」のTV放映が、世の奥様方を熱狂させているようですが、菊池も華麗なる学者門閥、箕作一族に連なり、後に東京帝国大学総長も勤めた人物です。高木兼寛らとともに明治21年5月7日、日本で最初に博士号を授与された25名のうちの一人でもあります。

この本の原著“The Common Sense of the Exact Sciences”はもともとWilliam K. Cliffordが構想したものでしたが、34歳の若さで志半ばに彼岸に旅立ってしまいました。その意思を汲んだKarl Pearsonが書き継ぎ、1885年に出版に至ったものです。翻訳者の菊池はLondonでPearsonと中学校からCambridge大学までともに学んだ親友でもありました。

以前から、椿広計先生がLondon留学当時の夏目漱石とPearsonの関係について調査しておられ、本書についても先生からお話を伺っておりましたので存在は知っていたのですが、入手できるとは思っておりませんでした。先日、ある会合で参加者に本書を見せびらかしたのですが、周りの反応は「何それ？」という感じでいま一つだったなかで、椿先生だけが「オリジナルを手にとることができるとは思わなかった」と異常に喜んで下さいました。

文語の堅い文章で読みにくいかもしれませんが、興味のある向きには、国立国会図書館のデジタルアーカイブからJPGファイルで読むことができます。早咲きの桜を眺めながら日本の近代黎明期の数理科学の世界に思いを馳せながら読んでみるのも一興ではないでしょうか。

次号は梅雨明けの時季に発行予定です。

日本橋の河岸より

計量生物学会ニュースレター93号
2007年2月28日発行
発行者 日本計量生物学会
発行責任者 丹後 俊郎
編集者 松井茂之、酒井弘憲